

FUJITSU Cloud Service K5 Zinrai プラットフォームサービス
Zinrai ディープラーニング 制限事項・注意事項

第11版
2018/10/18
富士通株式会社

FUJITSU Cloud Service K5 Zinraiプラットフォームサービスにおける、制限事項・注意事項となります。各機能の詳細につきましては、機能説明書を参照下さい。

1. 制限事項

| No | 機能 | 内容 | 解除時期 | 備考 |
|----|-------------------|---|---------|-----------------|
| 1 | 対話型学習 | <p>/workspaceの残り容量が50GB未満の状態に対話型コンテナを停止した場合、コンテナイメージが保存されません。</p> <p>(お客様影響) 最新のコンテナイメージが起動できません。 1世代前のコンテナイメージが起動されます。</p> <p>[回避方法] 対話型コンテナを停止する場合、以下の手順で実施ください。 ①jupyterのターミナルを起動し、"df -k"コマンドを実行し /workspaceの空き容量を確認 ②空き容量が50GB以下の場合 ・/workspace内のファイルを削除、または、退避 ・空き容量が50GB以上になったことを確認 ③対話型コンテナを停止</p> | 2017/6月 | 2017/06/27 制限解除 |
| 2 | 対話型学習 | <p>以下の使いかたをした場合、対話型コンテナの再開が失敗します。</p> <p>1) 対話型コンテナを新規作成し、かつ 2) 一度も停止させずに対話型コンテナを使用し続け、かつ、 3) /workspaceの残容量が50GB未満の状態に対話型コンテナを停止し、かつ 4) 3)で停止した対話型コンテナを再開した場合</p> <p>[回避方法] 対話型コンテナを新規作成する場合、以下手順で実施ください。 ①対話型コンテナの新規作成 ②対話型コンテナの停止 ③対話型コンテナの再開 ④対話型コンテナ上で各種操作を実行</p> | 2017/6月 | 2017/06/27 制限解除 |
| 3 | 対話型学習 | <p>対話型イメージを削除しても、お客様ストレージの残容量が増えません。</p> <p>[回避方法] 回避方法はありませぬ。サポートデスクに連絡お願いいたします。</p> | 2017/6月 | 2017/06/27 制限解除 |
| 4 | 知識ライブラリ | <p>数万ファイルを含むデータアップロードした場合、データのアップロード完了まで数時間かかる場合があります。</p> <p>[回避方法] 回避方法はありませぬ。 以下の見積もり式から、アップロード時間をお見積もり下さい。</p> <p>アップロード時間は、通常のデータ転送時間と、以下の見積もり式によるzip内ファイルに対する処理時間からお見積もり下さい。 <アップロード時間見積もり式> アップロード時間 = ①zipファイル転送時間 + ②zip内のファイルに対する処理</p> <p>①zipファイル転送時間 通常のデータ転送見積もり方法でお見積もり下さい。</p> <p>②zip内のファイルに対する処理時間 処理時間(秒) = 1ファイルあたりの処理時間 x ファイル数 1ファイルあたりの処理時間 = 0.15秒(150ミリ秒)</p> <p>例: 10,000個のファイルを含むzipファイルの場合、1500秒(25分) = 0.15(秒) x 10,000(個) 但し、サーバ負荷が高い場合、あるいは、同時に複数のzipファイルをアップロードした場合、上記より時間がかかります。</p> | 2017/6月 | 2017/06/27 制限解除 |
| 5 | 知識ライブラリ | <p>「所持データ管理」画面、あるいは、「アップロード状況」画面から、同一データに対して同時に削除要求と編集要求があった場合、削除要求されたデータが、削除要求完了後も一覧に表示される場合があります。</p> <p>[回避方法] 削除操作を再度実行し、データを削除ください。</p> | 2017/6月 | 2017/06/27 制限解除 |
| 6 | 学習状況の確認 | <p>グローバルナビゲーションの[管理]-[ジョブ状況]を選択し、[サブミットジョブ]タブを選択した一覧画面において、ジョブ種別「認識1」「認識n」はジョブの中断処理の対象外となります。 認識ジョブの一覧選択時に中断ボタンが押下可能となっておりますが、中断処理は行われず再度一覧に表示されます。</p> <p>[回避方法] 回避方法はありませぬ。</p> | 2017/7月 | 2017/07/27 制限解除 |
| 7 | 学習結果の確認 (画像認識) | <p>グローバルナビゲーションの[認識]メニューより、学習モデルの認識設定画面の[複数枚指定]タブにおいて、「カテゴリ毎使用枚数指定」は無効となります。</p> <p>・「カテゴリ毎表示枚数」の数値とは無関係に、8枚以下を認識させた場合、「Top images for this category」には認識枚数分が表示されます。 ・「カテゴリ毎表示枚数」の数値とは無関係に、9枚以上を認識させた場合、「Top images for this category」には必ず9枚表示されます。</p> <p>[回避方法] 回避方法はありませぬ。</p> | 2017/7月 | 2017/07/27 制限解除 |

| | | | | |
|----|-----------------------|---|----------|-----------------|
| 8 | 学習結果の確認 (画像認識) | <p>グローバルナビゲーションの[認識]メニューより、学習モデルの認識設定画面の[複数枚指定]タブにおいて、複数枚指定の最大ファイル数が100枚を超えた時、メッセージ「200枚以上のファイルが指定されました」と表示されますが、メッセージが不適切で正しくは100枚です。</p> <p>[回避方法] 回避方法はありません。メッセージを読み替えてください。</p> | 2017/7月 | 2017/07/27 制限解除 |
| 9 | 知識ライブラリ | <p>データセット作成画面の画像ファイル数の値は、画像ファイル数+1と表示されます。これは、教師データに含まれる labels.txtもカウントしているためです。</p> <p>[回避方法] 回避方法はありません。データセット作成画面に表示している画像ファイル数から1を引いた数を、画像ファイル数と認識してください。</p> | 2017/7月 | 2017/07/27 制限解除 |
| 10 | データの管理 | <p>管理メニューにて管理される、「ワーキングセット」、「モデル」、「データセット」、「認識結果」の各データ一覧画面より、一括で数十件のデータを同時に削除すると、エラー画面が表示され、正常に削除完了しないことがあります。</p> <p>[回避方法] 各データの一覧での一括削除数は10以下としてください。</p> | | |
| 11 | 新規学習 追加学習 NN最適化 | <p>新規学習・追加学習・NN最適化でGPUを2つ以上使用した場合、GPU1つで学習を行った場合より早く学習が収束しますが、GPU1つに相当する学習を終えたのちも(accuracy値(正解率)がモデル相応の水準に達した後も)学習を継続します。</p> <p>複数GPUを使用した場合でも、最終的にGPU1つで学習を行った時間と同程度経過したのち学習が終了します。なお、GPU数に応じてリニアに近い学習の高速化が行えるか(GPU数に応じて学習の収束が早まるか)はモデルのネットワークに依存します。もともと、GPU数に応じて学習が高速化するようにチューニングされていないネットワークの場合は、使用したGPU数に応じて学習の収束、および1GPU相当の学習を終えたのち学習を継続し学習が終了するまでの時間が長くなることがあります。</p> <p>[回避方法] 新規学習・追加学習の場合、グローバルナビゲーションで、「管理」-[モデル]を選択し、モデルの詳細情報より、グラフのaccuracy値(正解率)、テストロスの収束状況を定期的に確認してください。期待する水準のaccuracy値に達している場合は、グローバルナビゲーションで「管理」-[モデル]より、学習を中断を行ってください。</p> <p>NN最適化に関しては、自動生成したハイパーパラメーターに対する学習を個別に中断できないため、回避方法はありません。</p> | | |
| 12 | 知識ライブラリ | <p>知識ライブラリの所持データ情報編集画面で、データ種別を「モデルセット」または「その他」から「教師データ」または「Edge用データ」に変更した場合、学習ウィザードのデータセットの作成画面に表示される画像ファイル数の値が、画像ファイル数ではなく、全ファイル数で表示されます。</p> <p><画像ファイル数、全ファイル数について> 全ファイル数:全てのファイルをカウントした数 画像ファイル数:拡張子がjpg,jpeg,pngのファイルをカウントした数 <教師データのディレクトリ構成の例> labels.txt train/airplane/001.jpg /002.jpg car/001.jpg /002.jpg</p> <p>上記の例の場合、全ファイル数は5、画像ファイル数は4です。</p> <p>[回避方法] 教師データをアップロードする場合、データ種別を「教師データ」または「Edge用データ」に指定してください。 データ種別を「モデルセット」または「その他」に選択してアップロードした場合、一度データを削除した後、データ種別を「教師データ」または「Edge用データ」に指定して再度アップロードを行ってください。</p> | | |
| 13 | データ持ち込み | <p>データ持ち込みのサービスで使用する構成チェックツールで、-fオプションに“xml”を指定した場合、予期せぬエラーが発生する場合があります。</p> <p>[回避方法] -fオプションに“text”を指定する、または-fオプションを省略し、テキスト形式で構成チェック結果ファイルを出力してください。</p> | | |
| 14 | 新規学習 追加学習 NN最適化 | <p>新規学習・追加学習のスナップショット、およびNN最適化の実行結果のファイルサイズが大きい場合、ダウンロードが失敗することがあります。ダウンロードファイルの準備処理が1分以内に完了しない場合、ダウンロード処理が開始前に打ち切られ「An error occurred.」あるいは「502 Bad Gateway」のエラーがブラウザ画面に表示されます。</p> <p>[回避方法] 上記ファイルのサイズを小さくするため、以下の方法で学習を行ってください。 ・AlexNet や LeNet の代わりに GoogleNet を使用してください。 ・Crop Sizeは223以上、かつ256以下で設定してください。</p> | | |
| 15 | エッジ連携 | <p>エッジモデルをAndroid、iOSへのダウンロードする場合、ダウンロードに失敗することがあります。エッジモデルのサイズが大きい場合(100MB以上が目安のサイズになります)、準備処理に時間がかかります。準備処理が10秒以内に完了しない場合、ダウンロード処理が開始前に打ち切られ、ダウンロードに失敗します。</p> <p>[回避方法] エッジモデルのサイズを小さくするため、以下の方法で学習を行ってください。 ・AlexNet や LeNet の代わりに GoogleNet を使用してください。 ・Crop Sizeは223以上、かつ256以下で設定してください。</p> | 2017/10月 | 2017/10/31 制限解除 |
| 16 | 教師データ | <p>教師データの labels.txt に 4500 以上のラベルを含む場合、学習後の認識(1枚指定、複数枚指定)に失敗し、「予期しないエラーが発生しました」と表示されることがあります。</p> <p>[回避方法] 教師データの labels.txt に含めるラベル数は 4500 以下にしてください。</p> | | |

| | | | | |
|----|-------------------------|--|---------|--|
| 17 | NN最適化 | <p>NN最適化のワーキングセットに対し追加学習を行うことはできませんが、ワーキングセットの一覧より、NN最適化のモデルに対して「追加学習」ボタンが有効になっています。 このとき「追加学習」を実行しても、学習ウィザードのスナップショットの選択画面で、スナップショットが表示されません。</p> <p>[回避方法] ありません。NN最適化のワーキングセットに対し追加学習の操作をしないようにしてください。</p> | | |
| 18 | バッチ型学習 | <p>学習ウィザードの各入力画面で操作しているときに、別ブラウザでログイン画面を立ち上げると、元の画面では「次へ」ボタンを押下したときに画面上に「undefined」と表示され、後から立ち上げたログイン画面からログインを試みると「403 Access Denied」が表示され両画面ともアクセスできなくなります</p> <p>[対処方法] アクセスできなくなった場合は、再ログインしてください。</p> | | |
| 19 | エッジ連携 | <p>バッチ型学習にて、LeNetのようにData Layerのtransform_paramのscale値(※1)に1以外(指定しない場合はデフォルト値1となります)を指定して学習したモデルをエッジで利用すると、正しく推論できず誤った結果となります。</p> <p>※1: 例えば、以下の手順でネットワークにscale値を指定しているかを確認することができます。 1) 「管理」→「モデル」を選択し、モデル一覧を表示 2) 対象となるモデルを選択し、モデルの詳細表示を表示 3) 「ネットワーク情報」→「Train/Val」のprototxtを選択し、ファイルを保存後、エディタ等で内容を確認。</p> <p>[回避方法] エッジ推論で利用する学習モデルは、GoogleNet, AlexNet を使用してください。</p> <p>2018/1/31 追加情報 [再作成手順] 1. メニュー「管理」→「モデル」を選択し、モデル一覧を表示します。 2. 対象のモデル名を選択し、モデル詳細を表示します。 3. モデル詳細画面の「スナップショット情報」からスナップショットの転送を行います。(これにより知識ライブラリに再度登録されます) 4. メニュー「エッジ」→「モデル管理」を選択します。 5. 「新規作成」ボタンを選択し、エッジ用モデルを作成します。 6. 新たに作成したエッジ用モデルを、Android/iOSにダウンロードします。</p> | 2018/1月 | 本制限は2018/1/31に解除されましたが、解除前に作成されたLeNetモデルを用いる場合は、左記の追加情報の手順に従いエッジモデル再作成が必要です。 |
| 20 | カスタマイズドバッチ マネジメントAPI | <p>カスタマイズドバッチ、または、マネジメントAPIの学習ジョブ実行(POST /training_jobs:start)を利用して、知識ライブラリにデータを登録する際に、/batch_result 直下に「log」という名前のファイルやディレクトリがある場合、登録データの状態が「登録失敗(内部エラー)」または「Registration Error (Internal Error)」となる場合があります。</p> <p>[回避方法] 回避方法はありません。 /batch_result直下に、「log」という名前のファイルやディレクトリを置かないでください。</p> | | |
| 21 | 知識ライブラリ | <p>「所持データ管理」画面、あるいは「Webアップロード状況」画面から、大量のデータを選択し、「削除」ボタンより削除を実行した場合、ウィザードにて削除実行中の状況がしばらく表示された後、「KL34001:通信に失敗しました。」というメッセージが表示されることがあります。 このとき、削除処理が中断されてしまう場合と削除処理が正常に継続している場合があります。 処理が継続されているかどうかについて、通常の削除に要する時間(削除データ量によって変わります)待ってからデータが削除されているかどうかをご確認ください。</p> <p>[回避方法] 回避方法はありません。 サーバの負荷状況によって変わりますが、多量データの削除をあまり行わないことで、発生する可能性は低くなります。</p> | | |

2. 注意事項

| No | 機能 | 内容 | 解除時期 | 備考 |
|----|---------|---|---------|-----------------|
| 1 | 対話型学習 | <p>対話型コンテナのイメージを削除してしまうと、そのコンテナで作成した/workspace内のデータにアクセスできなくなります。</p> <p>[回避方法] 対話型コンテナを削除する前に、一度そのコンテナを立ち上げ、/workspace内のデータを退避/削除した後、コンテナを削除してください。</p> | 2017/6月 | 2017/06/27 注意削除 |
| 2 | 知識ライブラリ | <p>「データの新規アップロード」ウィザードの「アップロード中」画面において、「キャンセル」ボタン以外で処理を中断しないでください。</p> <p>(お客様影響) 「キャンセル」ボタン以外で処理を中断した場合(ブラウザ自体を閉じた場合など)、対象データが「アップロード状況」画面でアップロード中のままとなり、一覧から削除ができなくなる場合があります。表示上「アップロード中」のままとなりますが、NAS領域にはデータは格納されていませんので、NAS領域には影響しません。</p> <p>[回避方法] 回避方法はありません。サポートデスクに連絡お願いいたします。</p> | 2017/6月 | 2017/06/27 注意削除 |
| 3 | 対話型学習 | <p>対話型コンテナを停止した場合、Undefinedの画面が表示されることがあります。</p> <p>[復旧方法] Undefinedの画面が表示された場合は、ブラウザの画面をreloadしてください。</p> | | |

| 4 | モデルの管理 (データの管理) | <p>モデルの管理機能において、未学習時にCaffeログをダウンロード使用とした場合、Caffeログファイルがないため、次のメッセージが表示されます。 "ERROR: AB35203: No caffelog ..."</p> <p>[回避方法] Caffeログは学習時に作成されるログファイルであり、未学習の場合はCaffelogは作成されていません。 Caffeログは学習後に再度ダウンロードしてください。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----------|--------------------|--|----------|-----------------|-------------|----------|----------|------|------|------|----|----|----|----|----------|----|----------|---|---|---|---|---|---|---------|---|---|---|---|---|---|---------|---|---|---|---|---|---|--------|---|---|---|---|---|---|--|--|
| 5 | 学習ウィザード | <p>・学習ウィザード内は先に進むのみ、戻る機能はありません。 ・各モデルでのキャンセル時及びエラーメッセージ表示時は、ウィザードが終了しワーキングセット一覧に戻ります。 ・ウィザード内のボタン実行で保存されるデータについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各管理画面でのみ削除可能 ・保存ボタン一覧(O:保存、-:対象外) <table border="1" data-bbox="300 450 1129 622"> <thead> <tr> <th>画面</th> <th>ワーキングセット作成</th> <th>ネットワークコード編集</th> <th>ネットワーク選択</th> <th>データセット作成</th> <th>学習設定</th> <th>学習設定</th> </tr> <tr> <th>ボタン名</th> <th>次へ</th> <th>確定</th> <th>次へ</th> <th>確定</th> <th>ジョブランク選択</th> <th>実行</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ワーキングセット</td> <td>O</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>モデル(新規)</td> <td>-</td> <td>O</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>O</td> <td>O</td> </tr> <tr> <td>モデル(流用)</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>O</td> <td>-</td> <td>O</td> <td>O</td> </tr> <tr> <td>データセット</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>O</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table> | 画面 | ワーキングセット作成 | ネットワークコード編集 | ネットワーク選択 | データセット作成 | 学習設定 | 学習設定 | ボタン名 | 次へ | 確定 | 次へ | 確定 | ジョブランク選択 | 実行 | ワーキングセット | O | - | - | - | - | - | モデル(新規) | - | O | - | - | O | O | モデル(流用) | - | - | O | - | O | O | データセット | - | - | - | O | - | - | | |
| 画面 | ワーキングセット作成 | ネットワークコード編集 | ネットワーク選択 | データセット作成 | 学習設定 | 学習設定 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ボタン名 | 次へ | 確定 | 次へ | 確定 | ジョブランク選択 | 実行 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ワーキングセット | O | - | - | - | - | - | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| モデル(新規) | - | O | - | - | O | O | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| モデル(流用) | - | - | O | - | O | O | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| データセット | - | - | - | O | - | - | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6 | データの管理 | <p>管理メニュー「ワーキングセット」、「モデル」、「データセット」、「認識結果」の各データ一覧画面の表示最適数は次のようになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> - ワーキングセット: 180 - モデル: 50 - データセット: 120 - 認識結果: 80 <p>各データ数が上記の表示最適数を超えないよう、学習・認識をご利用ください。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7 | 知識ライブラリ | <p>以下の操作を行ったとき、画面が白いまま長時間表示される場合があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・[所持データ管理]画面の[新規アップロード]ボタンで、[新規アップロードウィザード]画面を表示 ・[所持データ管理]画面の[編集]ボタンで、[編集ウィザード]画面を表示 ・[所持データ管理]画面の[削除]ボタンで、[削除ウィザード]画面を表示 ・[データ詳細]画面の[編集]ボタンで、[編集ウィザード]画面を表示 ・[データ詳細]画面の[削除]ボタンで、[削除ウィザード]画面を表示 ・[アップロード状況]画面の[新規アップロード]ボタンで、[新規アップロードウィザード]画面を表示 ・[アップロード状況]画面の[削除]ボタンで、[削除ウィザード]画面を表示 <p>[回避方法] F5 キーを押し、前の画面に戻ってください。その後、時間を置いて再度実行してください。</p> | 2017/7月 | 2017/07/27 注意削除 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8 | 対話型学習 | <p>[対話型コンテナを削除後のユーザディレクトリのファイルについて] 対話型コンテナを削除した場合、対話型環境で使用していたユーザディレクトリ(/workspace)は、その後起動・再開した別の対話型環境の /trashbin/workdirs/{WorkDir_ID} に移動します。 不要な場合は、削除することができます。(削除しても、ディスク空き容量が反映されるまでに時間がかかることがあります)</p> | 2017/7月 | 2017/07/27 注意削除 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9 | NN最適化 | <p>NN最適化は、ハイパーパラメーターの評価にテストロスを使用しています。 train_val.prototxt では、Lossレイヤーのtopキーの値は、次のいずれかの名前にしてください。</p> <p>1) 'loss', または 2) 'loss1/loss1' と 'loss2/loss1' と 'loss3/loss3'</p> <p>補足:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2)の場合、3つのレイヤーの平均値をテストロスとして使用します。 ・ 種別: スタンダード」の定義の場合は、上記の形式に沿っています。 <ul style="list-style-type: none"> - LeNet および、AlexNet は 1)の形式です - GoogleNet は 2)の形式になります。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10 | 新規学習・追加学習 | <p>ステータス表示が学習エラーとなった場合、次の手順で caffelog.log をダウンロードし、エラー原因の調査を行ってください。</p> <p>[手順] (1) [管理]メニューより、[モデル]の項目を選択し、「モデル一覧」画面を開く (2) 「モデル一覧」画面より、学習エラーとなったモデルのリンクをクリックし「モデル詳細(新規学習・追加学習)」画面を開く (3) 「モデル詳細(新規学習・追加学習)」画面の画面下のグラフの上あたりにある、Caffeログのリンクをクリックして、ファイルをダウンロードする。 (4) ファイルの展開 - ダウンロードされたファイルは log.tar.gz として保存されます。 - このファイルを Linux で tar zxvf log.tar.gz を実行し展開します。 (5) ファイルの確認 - caffelog.log の最後の方にエラーが内容が記録されています。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11 | 学習結果の確認 (画像認識) | <p>学習結果の確認で使用モデルのAccuracy値が低い(10%程度)場合、画像認識がエラー終了する場合があります。 Accuracy値が高い#epochを選択してください。 また、Accuracy値は次の手順で確認してください。</p> <p>[手順] (1) [管理]メニューより、[モデル]の項目を選択し、「モデル一覧」画面を開く (2) 「モデル一覧」画面より、学習結果の確認を行うモデルのリンクをクリックし「モデル詳細(新規学習・追加学習)」画面を開く (3) スナップショット情報を参照して、各スナップショット名のAccuracy値を確認する</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | |
|----|----------------------|---|----------|-----------------|
| 12 | 対話型学習 | <p>/workspaceの残り容量が50GB未満の状態に対話型コンテナ停止してもコンテナイメージは保存できません。対話型コンテナ停止時にコンテナイメージを保存するために、/workspaceの残り容量が50GB以上必要であり、残り容量が不足している場合、警告ダイアログが表示されますのでファイルの削除等実施し、空き容量を確保してください。空き容量を確保せずに停止処理を続行した場合、以下のような影響があります。</p> <p>(お客様影響)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保存済のコンテナを再開して使用中であった場合: 次回再開時、最後の停止時のコンテナイメージは起動されず、1世代前のコンテナイメージが起動されます。 ・新規作成で起動したコンテナを使用中であった場合: コンテナイメージは保存されていない為、状態はエラー表示となり再開することはできません。 | | |
| 13 | 学習結果の確認 | <p>スナップショットのAccuracy表示において、同一スナップショットであるのに画面によって値に誤差が生じます。小数点以下の端数処理方法に違いがあるためです。</p> <p>各画面における端数処理は以下のようになります。</p> <p>管理 モデル詳細 ⇒ 四捨五入 管理 認識結果 ⇒ 切り捨て 学習ウィザード(追加学習) ネットワーク選択 ⇒ 切り捨て 認識 認識設定 ⇒ 切り捨て</p> | 2017/10月 | 2017/10/31 制限解除 |
| 14 | Distributed Caffe 学習 | <p>NAS領域枯渇要因でDistributed Caffeの学習が異常終了した際に、モデルステータスが[学習済]となり、ジョブのステータスも[完了]となります。</p> <p>[回避方法] ストレージの容量が非常に少ない状態で学習を行った場合、エラーしたり学習結果が書き込まれない現象が発生することがあります。学習を行う前に、十分な空き容量があることを確認してください。</p> | | |
| 15 | スナップショットダウンロード | <p>ダウンロード不可の結果をダウンロードしようとすると、通常のエラー出力ではなく、エラーメッセージを含むテキストがブラウザに表示されます。</p> <p>[回避方法] ストレージ容量不足の場合、スナップショットが保存されず、スナップショットをダウンロードする際、エラーが表示されます。学習を行う前に、十分な空き容量があることを確認してください。</p> | | |
| 16 | モデル詳細ジョブ情報 | <p>1つの学習モデルに対して複数のジョブが実行された場合、最後に実行されたジョブの情報のみ表示されます。</p> <p>[対処方法] 学習モデルに紐づくジョブを確認する場合、「ジョブ状況」画面にてご確認ください。</p> | | |
| 17 | データセット作成 | <p>データセット作成で画像数が多い場合にタイムアウトが発生する場合があります。(ImageNetは約900万ファイル)</p> <p>(お客様影響) タイムアウトによるメッセージ画面が表示されますが、データセット作成は継続し処理が終了すると「作成済み」になります。ここで作成されたデータセットは、新たにワーキングセット作成による学習を行う場合に使用することが可能です。</p> | 2017/9月 | 2017/9/22 制限解除 |
| 18 | 知識ライブラリ | <p>知識ライブラリの[マージウィザード]画面よりデータのマージを行い、マージ中にストレージの空き容量が不足した場合、[データマージ状況]画面のマージ状態に「マージ失敗(内部エラー)」が表示されます。</p> <p>[回避方法] ストレージの空き容量を増やした後、再度データのマージを行ってください。 データのマージと同時に知識ライブラリにデータを登録する場合は、ストレージの空き容量に注意してください。</p> | | |
| 19 | 学習ウィザード | <p>学習ウィザードのデータセット選択画面において、「ストップ」または「エラー」のデータセットを選択すると学習のサブミットジョブが「準備中」の状態のままとなり、学習ジョブは実行されません。</p> <p>[対処方法] 学習を実行するデータセットとして、ステータスが「ストップ」及び「エラー」のデータセットを選択しないようにしてください。</p> | | |
| 20 | ダイアログ表示 | <p>操作画面のボタン押下により呼び出されるモーダルダイアログをESCキー操作で閉じた場合、元のダイアログ表示させたボタンが押下出来ない状態のままとなってしまいます。</p> <p>[回避方法] モーダルダイアログをESCキーで閉じないようにしてください。 もしESCキーでモーダルダイアログを閉じボタンが押せない状態になった場合は、ページの再読み込みを行ってください。</p> | | |
| 21 | 対話型学習 | <p>対話型コンテナを停止した場合に、「Internal error occurred」の画面が表示されることがあります。</p> <p>[対処方法] 「Internal error occurred」の画面が表示された場合は、「閉じる」ボタンを押した後、ブラウザの画面をreloadしてください。</p> | | |
| 22 | 学習ウィザード | <p>学習ウィザードでデータセット作成し学習を行う場合に、データセット作成が完了していない場合はデータセット選択画面の画像数が0枚と表示されます。</p> <p>[対処方法] データセット作成完了後は実際に使用した画像数が表示されます。作成完了後に確認してください。</p> | | |

| | | | | |
|----|-----------------------------|---|--|--|
| 23 | モデル詳細画面 | <p>「モデル詳細」画面でスナップショットを選択し「ダウンロード」ボタンを押下、または「モデル詳細(NN最適化)」画面で実行結果のモデルを選択し「ダウンロード」ボタンを押下した直後に、別画面に移動するとダウンロードに失敗します。また、前述の「ダウンロード」ボタンを連続押下した場合、最後に選択したスナップショットまたはモデルしかダウンロードされません。</p> <p>[対処方法] ダウンロードボタン押下後は、保存用ダイアログが表示されるまでは、次の操作を行わないようにしてください。 ・他画面遷移 ・ダウンロードボタン連続押下</p> | | |
| 24 | 追加学習 | <p>追加学習時に学習の設定で Crop Size を学習済みモデルと異なる値にすると学習エラーになります。学習エラー時にCaffeログには「shape mismatch」のエラーが記録されます。</p> <p>エラーの例: Fmmdd hh:mm:ss.nnnnnn 31 net.cpp:829] Cannot copy param 0 weights from layer 'fc6'; shape mismatch. ~</p> <p>注) Fmmdd hh:mm:ss.nnnnnn Fmmdd のmm は月、dd は日、hh:mm:ss.nnnnnn は時刻を表します。</p> <p>[回避方法] 学習の設定で Crop Size は学習済みモデルと同じ値を設定してください。</p> | | |
| 25 | NN最適化 | <p>NN最適化では次の機能との連携はできませんがウィザードを起動できてしまいます。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 追加学習 - 認識 <p>[回避方法] NN最適化では追加学習、認識と連携できないため、これらの操作を行わないようにしてください。</p> | | |
| 26 | 学習ウィザード | <p>コード編集で「確定」ボタンを押下した場合、コード編集エラーがあっても必ずネットワーク(モデル)データが作成されます。エラーのあったネットワークデータを参照しても、コードが空で表示されます。</p> <p>[対処方法] コードエラーがあるデータは使用できませんので、削除する場合はグローバルメニューの「管理」→「モデル」の一覧から削除してください。</p> | | |
| 27 | 対話型学習 (時系列データ解析) | <p>対話型(種別:Time Series Data Analysis)で入力ファイルのエラーに対し、メッセージ等が出力されないか、Segmentation fault となり、対処方法が特定できない場合があります。</p> <p>[対処方法] train.py で原因が特定できないエラーとなった場合は、次の事象に該当しないかを確認してください。 ・データセットの系列名(3列目)に指定した値が、データ間隔チェック用閾値ファイルに存在しない場合エラー終了します ・データセットの時刻(4列目)に時刻を指定するとき、時刻間隔が狭すぎる場合はエラー終了します ・データセットの同一のIDで有効な系列データが3未満の場合 Segmentation fault となります ・データセットのIDの種類(数)がパラメーターファイルの「batchsize_div」より小さい場合、エラー終了します</p> | | |
| 28 | エッジ画像管理 | <p>「エッジ画像管理」において、登録される画像が多くなるに伴い表示にかかる時間が増加します。1000件の画像表示されている場合、約10秒要します。</p> <p>[回避方法] 登録済み画像を適宜削除してください。</p> | | |
| 29 | エッジ推論 SDK (Android, iOS) | <p>障害修正を取り込んだ最新のSDKを利用するためには、SDKダウンロード画面からSDKをダウンロードし、ご利用中のライブラリを最新のライブラリに置き換えて下さい。 障害修正内容については、SDKに同梱されているガイドをご確認ください。</p> | | |
| 30 | 学習ウィザード | <p>ネットワークの選択画面の選択情報上に表示される「メモ」は、「学習ウィザード 学習設定」画面で入力されるメモを表示します。従って、ネットワークの選択画面で学習済みネットワークを選択した時は、学習時に設定したメモが表示されます。しかし、新規作成後にネットワーク選択画面から新規ネットワークを選択した場合、メモ入力フェーズが無いため、空白表示となります。</p> <p>[回避方法] 回避方法はありません。</p> | | |
| 31 | 学習ウィザード | <p>学習回数(Training epochs)の設定が大きい場合、次の操作で表示速度が極端に遅くなる場合があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理→モデル一覧→モデル詳細表示時 ・認識→モデル一覧→認識設定表示時 ・管理→認識結果一覧→詳細表示時 ・追加学習→スナップショットの選択表示時 ・NN最適化→学習設定表示時 <p>また、上記の画面の表示でタイムアウトにより画面表示でエラーとなったり、学習ジョブがエラー終了することがあります。</p> <p>[回避方法] Solver設定Training epochs(学習回数)は 250以下になるよう設定して下さい</p> | | |

| | | | | |
|----|--|---|--|--|
| 32 | 追加学習 (データセットの選択) | <p>知識ライブラリのデータ管理で次のような操作をしている場合、追加学習ウィザードのデータセットの選択画面で『[ベース入力イメージデータ]が存在しません』とメッセージが表示され、データが見えなくなることがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> 追加学習で使用するベースイメージデータを削除 追加学習で使用するベースイメージデータ種別を「教師データ」から変更 <p>データセット管理で次のような操作をしている場合、追加学習ウィザードのデータセットの選択画面で『[ベースデータセット]が存在しません』とメッセージが表示されデータが見えなくなることがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> 追加学習で使用するベースデータセットを削除 <p>[回避方法] 追加学習の実行前に次のことを確認し、前述のような操作を行わないでください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ベースデータセットが存在していること ベース入力イメージデータが存在していること ベース入力イメージデータのデータ種別が「教師データ」であること | | |
| 33 | WebUI画面全般 (ワーキングセット、対話型、データセット、モデル、認識結果、教師データ、エッジモデル、エッジ) | <p>Webブラウザでセッションを複数に分けて以下のような操作する場合に、エラーが表示されることがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> 削除処理中に別セッションで一覧や詳細画面の操作を行う 削除処理を行った後、別セッションでリロードせずに一覧や詳細画面で操作を行う <p>これらの操作により表示されるエラーは以下のような内容です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ERROR: AB04016: Unexpected I/O error occurred : ~ MESSAGE=[Errno 2] No such file or directory' ~ ERROR: AB04018: Unexpected OS error occurred : ~ MESSAGE=[Errno 2] No such file or directory' ~ ERROR: AB35001: dependent resource is gone : ~ 予期せぬエラー <p>[対処方法] 上記のような操作によるエラーが表示された場合、ブラウザ画面を閉じた後に再度実行してください。</p> | | |
| 34 | ダッシュボード画面 | <p>ダッシュボード画面の学習状況の進捗グラフにおいては、60日以前に作成されたモデルは表示されません。学習済みモデルの情報は、管理メニューのモデル一覧からご確認ください。</p> | | |
| 35 | データセット詳細画面 モデル詳細画面 | <p>データセット詳細画面およびモデル詳細画面のジョブ情報には、60日以内に実行されたジョブの情報のみが表示されます。最後にジョブを実行してから61日以上経過している場合、ジョブ情報は空欄となります。</p> | | |
| 36 | 対話型環境 | <p>対話型のDockerコンテナ内でファイル操作(大容量・大量ファイル作成、更新・削除)で停止に時間がかかります。以降、更新内容(大容量・大量ファイル作成、ファイルの追加削除)に応じて再開が長くなります。</p> <p>※ 参考実測値: 合計2万8000ファイルで28GBのファイル更新を行った場合、停止に22分、再開に8分30秒かかります。</p> <p>[対処方法] データセットやアプリケーションのログなどのファイル資産は、可能な限りストレージ(NAS)上に配置してください。また、容量の大きいパッケージをインストールする場合にダウンロード先をNASにしてください。</p> <p>既にDockerコンテナ内で上記のようなファイル操作を行ったことで、停止・再開に時間がかかっている場合、時間を短縮する方法は無く、ファイルを削除するなどの対処を行っても再開時間を短くすることはできません。このような場合、対話型環境を新規作成し、ストレージ(NAS)にファイル資産を置くようにする運用にて再構築する必要があります。</p> | | |
| 37 | 認識モデル一覧画面 | <p>認識のモデル一覧において「ページが応答しません」と表示されることがあります。認識のモデル一覧画面で、項目をクリックすると、項目によるソート処理が実行されますが、各モデルが持つスナップショットの合計数が多い場合、レスポンスデータが大きくなり、クライアントPCでブラウザのソート制御が打ち切られることにより、事象が発生するスナップショット数はブラウザを動作させるPCのスペック等の環境により差がありますが、以下のようなスペックのPCにおいて、スナップショット数合計がおおよそ25000個を超えるような場合に発生する可能性があります。</p> <p>- PCスペック: プロセッサ: Intel(R) Core(TM)i7-2600 CPU 3.40GHz / メモリ: 8GB / OS: Windows 7 64ビット</p> <p>[対処方法] 本メッセージが表示される状況になってしまった場合は、学習回数(epoch 回数)が多いモデルを削除するか、処理性能の高いPCで再実行してください。</p> | | |
| 38 | 対話型環境 | <p>対話型のDockerコンテナ内でディスク枯渇が発生させたまま停止を行うと、Jupyterの起動に失敗し、永続的に再開に失敗する現象に陥ることがあります。</p> <p>[回避方法] 対話型の使用中にDockerコンテナ内の領域を枯渇させてしまった場合は、停止を行う前に枯渇状態を解消してください。約276バイトの空き容量がない場合に失敗する現象を確認していますが、2%程度を目安に空き領域を確保するようにしてください。なお、対話型のDockerコンテナ内の領域が枯渇するほどDockerコンテナ内にファイルを配置することにより、再開にかかる時間が長くなります。可能な限り、NASにファイルを配置するようにしてください。また、大容量・大量ファイルを含むアプリケーションについては、インストール先を指定できる場合はストレージ(NAS)へインストールしてください。</p> <p>[対処方法] 本現象に陥った場合は、当該対話型IDを削除し、新規作成を行ってください。</p> | | |

| | | | | |
|----|--|--|--|--|
| 39 | モデル スナップショットのダウンロード NN最適化 実行結果のダウンロード | <p>LeNetの学習済みモデル(スナップショット)をダウンロードし、推論アプリケーションを作成する場合、推論結果が 0%、あるいは 100% など極端な値になることがあります。</p> <p>[対処方法] LeNetなど、Dataレイヤーに transform_param [scale: ~] を含むネットワークでは、推論時の入力データのピクセル値に学習時と同じ scale値を乗算する必要があります。</p> <p>種別: スタンダードのネットワークの場合、次のような修正を加えてください。 具体的には、変更例を参照願います。</p> <ul style="list-style-type: none"> • "data"レイヤーと"conv1"レイヤーの間に Powerレイヤーを加える • Powerレイヤーでは、power_param に学習時と同じ指定をする <p>例: deploy.prototxt にPowerレイヤーを挿入する変更例</p> <pre>===== *** 7.15 **** dim: 28 } layer { name: "conv1" type: "Convolution" ! bottom: "data" top: "conv1" param { lr_mult: 1.0 --- 7.24 --- dim: 28 } + layer { + name: "scale" + type: "Power" + bottom: "data" + top: "scaled" + power_param { + scale: 0.00390625 + } + } } layer { name: "conv1" type: "Convolution" ! bottom: "scaled" top: "conv1" param { lr_mult: 1.0</pre> | | |
| 40 | ストレージ(NAS) | <p>ストレージ (NAS) に作成できるファイルおよびディレクトリの合計数は、ストレージ容量に応じて下記の通りです。 この数を超えるファイルおよびディレクトリを作成する必要がある場合は、サポートデスクにお問い合わせください。</p> <p>ストレージ容量に対する 作成可能ファイル・ディレクトリ合計数の目安</p> <p>500GB : 約1600万個 1000GB : 約3100万個 1500GB : 約3100万個 2000GB : 約3100万個</p> <p>[対処方法] 上記合計数に到達し新たにファイル・ディレクトリ作成が出来なくなった場合は、当該対話型IDを削除し、新規作成を行ってください。</p> | | |
| 41 | ダッシュボード画面 | <p>定期メンテナンス時等でサービスを停止する際に実行中のジョブがある場合、ユーザーへの確認なしに停止されます。 このとき、ダッシュボード画面の News 記事に、ユーザにより停止された旨のメッセージが誤って出力されます。 『WARNING XXX(※)処理がユーザ指示により中断されました (ID:xxxxxxxx-xxxxxxxx) 』 ※: 停止された処理名が入ります。 実際にユーザ指示によるものかどうかは、メンテナンス実施と合わせてメッセージが出力されているかどうかご確認ください。</p> | | |
| 42 | 対話型環境 | <p>対話型環境におけるjupyter操作時、以下の事象が発生する場合があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ファイルやフォルダの作成や削除等の操作を行った場合、以下のエラーが表示されることがあります 「XXXX(※) Failed」 ※行った操作により内容が異なります 「サーバーエラー」 ・画面描画が正しく行われず表示が崩れることがあります <p>[対処方法] 上記の事象となった場合、Webブラウザでページの再読み込みを行ってください。</p> | | |
| 43 | ログイン | <p>ログインした状態で長時間(2日程度)以上放置しセッションがタイムアウトした場合において、再ログインしようとした際に「403 Forbidden」メッセージが表示されログイン出来ないことがあります。</p> <p>[対処方法] 「403 Forbidden」メッセージ が表示される場合は、使用しているブラウザを終了し、再度ブラウザを起動してログインし直してください。</p> | | |

| | | | | |
|----|------------|---|--|--|
| 44 | カスタマイズドバッチ | <p>対話型環境に「/batch-result」という名前のシンボリックリンクが存在する状態でカスタマイズドバッチを実行した場合、以下の問題が発生する可能性があります。</p> <ul style="list-style-type: none">- /batch-result に本来マウントされるべきNAS上のディレクトリがマウントされない- カスタマイズドバッチ終了後、/batch-result 配下に保存したデータを知識ライブラリに登録できない <p>[対処方法] 対話型環境内で「/batch-result」という名前のシンボリックリンクは使用しないでください。使用する必要がある場合は、一時的な利用とし、カスタマイズドバッチを実行する前に削除してください。</p> | | |
|----|------------|---|--|--|

※上記内容は予告なく変更される可能性があります。